

Accuphase

PRECISION STEREO PREAMPLIFIER

プレジジョン・ステレオ・プリアンプ

C-3850

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読み
のうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きか
えにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

5年間の品質保証と保証書

C-3850の品質保証は5年間です。付属の「お客様カード（保証書発行はがき）」に必要事項を記入の上、必ず（なるべく10日以内）にご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

*「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは25ページをご参照ください。

*「品質保証書」はサービスサポート時に必要となります。保証書がない場合は、全て有償修理となりますので、保証登録を行っていただき、届きました保証書を大切に保管してください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

The Accuphase warranty is valid only in Japan.

マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品をご確認ください

- | | |
|----------------------------|-----------------------------------|
| ●取扱説明書(本書) …………… 1冊 | ●プラグ付きオーディオケーブル(1m) (ASL-10) … 1組 |
| ●安全上のご注意 …………… 1冊 | ●AC電源コード(2m) (APL-1) …………… 1本 |
| ●お客様情報の取扱いについて …………… 1枚 | ●単3乾電池 …………… 2個 |
| ●お客様カード(保証書発行はがき) …………… 1枚 | ●リモート・コマンダー RC-210 …………… 1個 |
| ●目隠しシール …………… 1枚 | ●クリーニングクロス …………… 1枚 |

目次

付属品を確認します 表紙裏頁

1. 安全上必ずお守りください 2

- ▲注意、お手入れ 3
- AAVA方式とは 3

2. 各部の名前 4,5

- フロントパネル、リアパネル 4
- ディスプレイ部 5

3. 各部の動作説明 6~13

- 1 POWER — 電源スイッチ 6
- 2 OUTPUT — 出力切替スイッチ 6
- 3 GAIN — ゲイン切替スイッチ 7
- 4 DISPLAY — ディスプレイON/OFFボタン 7
- 5 PHASE — 出力位相切替ボタン 7
- 6 MONO — モノ/ステレオ切替ボタン 7
- 7 BALANCE — バランス調整 8
- 8 RECORDER — レコーダーボタン 8
- 9 COMPENSATOR — コンペンセーター(聴感補正)スイッチ 9
- 10 PHONES LEVEL — ヘッドフォン・レベル切替スイッチ 9
- 11 OPEN — サブパネル開放ボタン 9
- 12 PHONES — ヘッドフォン出力ジャック 10
- 13 ATTENUATOR — アッテネーター 10
- 14 INPUT — 入力セクター 11
- 15 入力ディスプレイ部 11
- 16 リモート・センサー 11
- 17 レベル・ディスプレイ部 11
- 18 VOLUME — ボリューム調整 11
- 19 LINE (AD)、TUNER、CD、LINE 1~LINE 3 — ライン入力端子 12
- 20 BAL (AD)、CD BAL、BAL 1、BAL 2 — バランス入力端子 12
- 21 RECORDER — レコーダー再生/録音 12
- 22 OUTPUTS LINE 1、LINE 2 — ライン出力端子 12
- 23 OUTPUTS BAL 1、BAL 2 — バランス出力端子 12
- 24 EXT PRE INPUTS — 外部プリアンプ入力端子(ライン) 13
- 25 EXT PRE INPUTS — 外部プリアンプ入力端子(バランス) 13
- 26 SWITCHED — 電源スイッチと連動するACコンセント 13
- 27 AC電源コネクタ 13

4. 接続図 14

5. リモート・コントロール 15

- リモート・コマンダー RC-210の取り扱い方 15
- 使用法/電池について 15

6. ご使用方法 16~20

- 注意 16
- 使用する前にノブやスイッチ、ボタンの位置を確認します 16
- CDプレーヤーの演奏 16
- チューナーで放送を聴く場合 16
- 別系統のプリアンプやAVアンプでの演奏 17
- レベル・ディスプレイ部の《表示モード》変更 18
- コンペンセーターの使用 19
- ヘッドフォンの使用方法 19
- レコーダーで録音・再生をする場合 20
 - 接続 20
 - 機能(レコーダーボタン) 20
 - 操作(再生、録音、電源OFF時のチューナー録音) 20

7. アナログ・ディスク(AD)の演奏 21

- C-37との接続例 21
- 演奏の手順 21

8. 保証特性 22

9. ブロック・ダイアグラム 23

10. 故障かな?と思われるときは 24

11. アフターサービスについて 25

安全上必ず
お守りください

各部の名前

各部の
動作説明接
続
図リモート・
コントロールご
使
用
方
法アナログディスク
(AD)の演奏保
証
特
性ブ
ロ
ッ
ク
・
ダ
イ
ア
グ
ラ
ム故
障
か
な
?
と
思
わ
れ
る
と
き
はア
フ
タ
ー
サ
ー
ビ
ス
に
つ
い
て

1. 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。



■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属または当社指定の電源コード以外は絶対に使用しない。
- めれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きしない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨が掛かる場所又は湿気の多い場所では絶対使用しない。

■ウッド・キャビネットやボトム・プレート(底板)は絶対にはずさない。

- 内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。

- 通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。

ラック等に設置する場合は、周囲の隙間を充分確保する。

上下の通気孔をふさいだり、周囲の通風を妨げると故障の原因となります。

特にラック等に設置する場合は、次の図を参照して、製品左右や上面の隙間を充分確保し、周囲の通風を妨げないようにして、前・後面を密閉したラックは使用しないでください。

■脚の交換は危険ですから行わない。

- 取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

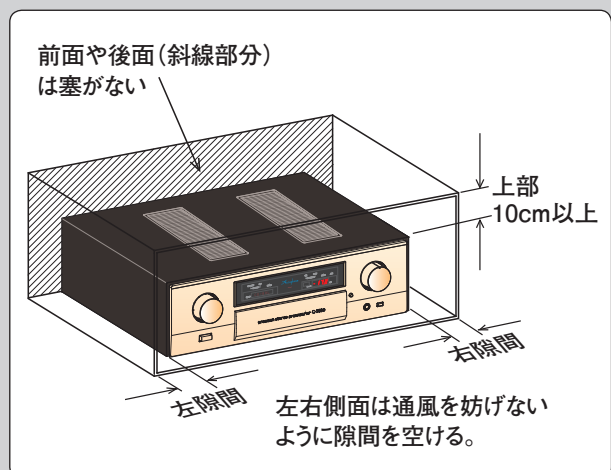
- 製品に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

*上記の各項目に対して、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。必ず電源コードをコンセントから抜いてください。

*万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



注意

■ 設置場所について

次のような場所への設置はさけてください。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たるところ
- 暖房器具の近く
- 極端に温度の低い場所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

■ パワーアンプなど他の機器と直接重ねて使用しない。

■ 長期間使用しないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜く。

■ 電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■ ヘッドフォンを使用するときは、スピーカーやヘッドフォンから急に大音量が出ないように必ず本機のボリュームを下げる。

■ 入・出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切る。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬グラウンド側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

■ バランス用とライン用ケーブルは同一機器同士を同時に接続して使用しない。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

■ レコードプレーヤーなどを操作するときは、必ず本機のボリュームを下げる。

特に、カートリッジを上げたり、下げたりするときは、ボリュームを下げないとスピーカーを破損する原因となります。

お手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のホコリやゴミ、指紋等汚れの拭き取りには付属のクロスを使用してください。特にウッド・キャビネットの場合には、表面を傷つけることなく、きれいに拭き取ることができます。
- 付属のクロスは、洗濯して繰り返し使用できます。洗剤で洗濯後は、よく水洗いし乾いた状態でご使用ください。
- ベンジン、シンナー、油、ワックス等を使用してお手入れは、表面を変色させたり、傷つけたりしますので使わないでください。

AAVA方式とは

C-3850は、AAVA(Accuphase Analog Vari-gain Amplifier)方式のボリューム・コントロールを搭載しています。AAVAは、従来の抵抗体による音量調整とは全く異なり、16段階に重み付けされた音楽信号を電流スイッチ回路で切り替え、それによって音楽信号の大きさを変える、画期的なボリューム・コントロール方式です。

実際の動作は従来ボリュームを利用し、それを回して調整位置を検出、電流スイッチのON/OFFによって増幅度(ゲイン)を決定します。AAVAは、入力から出力までのゲインをボリューム・ノブによって正確に変化させることができ、その数値(dB)をレベル・ディスプレイ部に表示することができます。(18ページ参照)

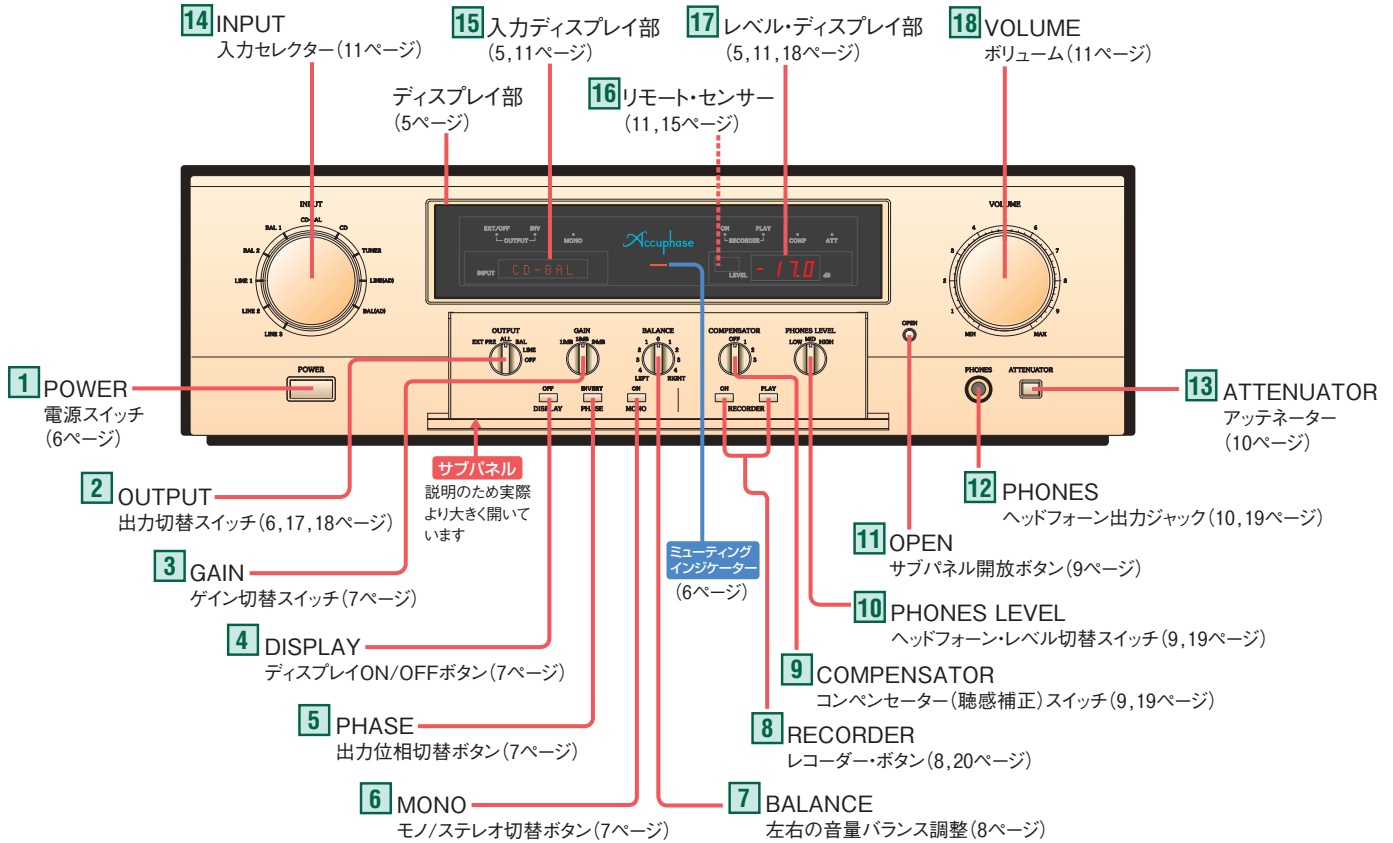
注意

高能率スピーカーをご使用の場合、ボリュームを回転するときやバランス調整を行うときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。

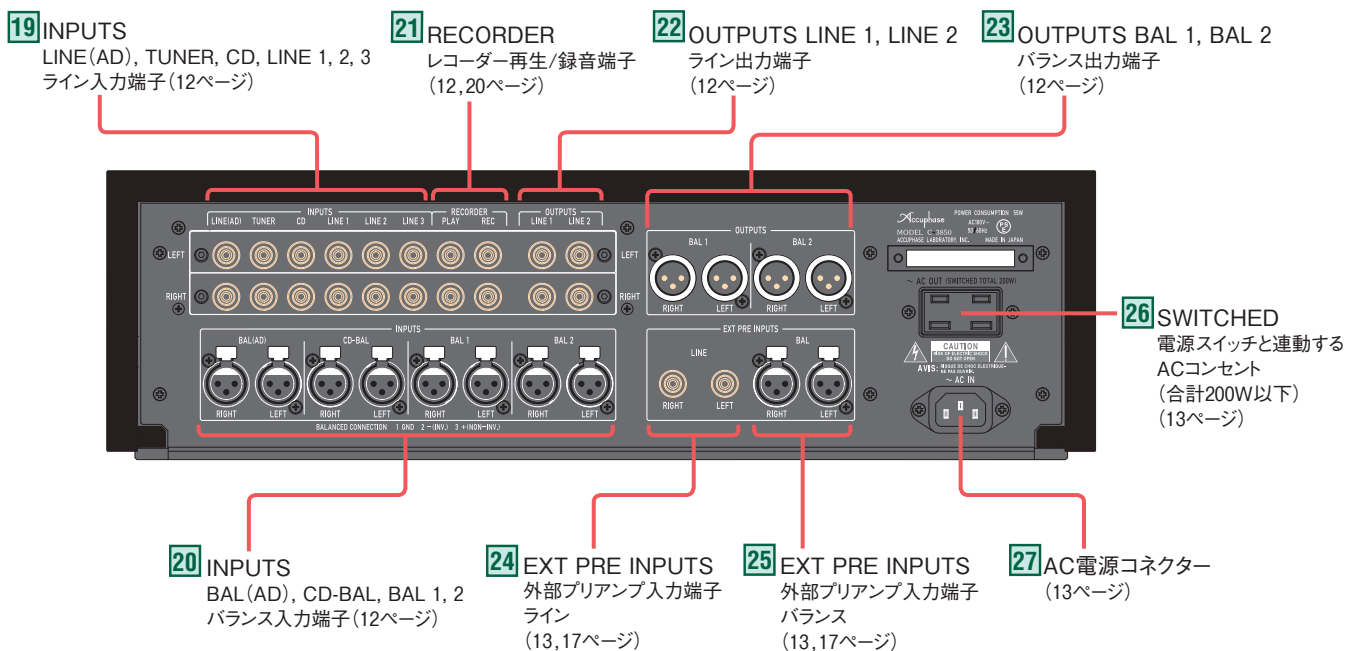
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)



ディスプレイ部

*イラストは説明用ですので、文字等は実際の表示と異なります。

15 入力ディスプレイ部と **17** レベル・ディスプレイ部は、**4** DISPLAYボタンで「表示のON/OFF」が可能です。

各部の名前

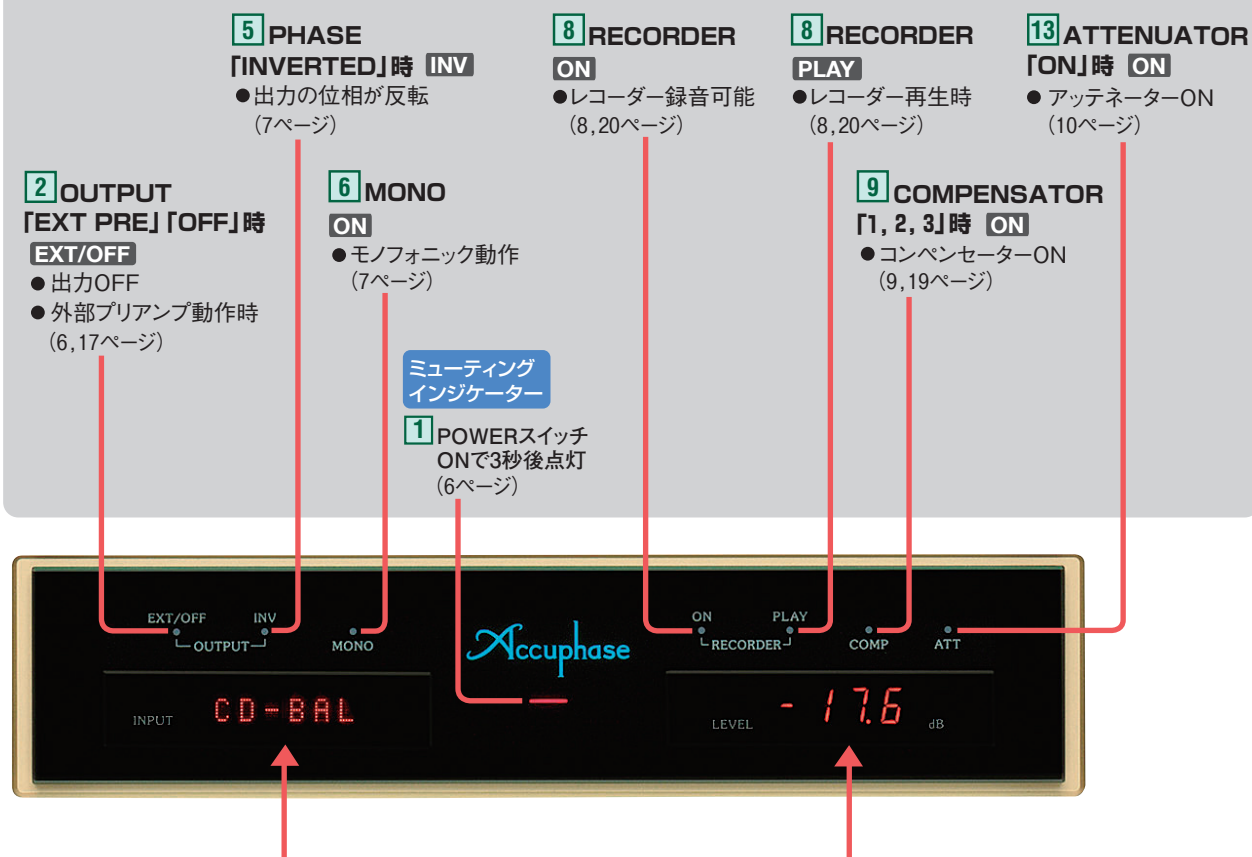
4 DISPLAYボタン:ON(点灯)時

7 BALANCEノブを調整した場合、その動作状態を4秒間表示後、元の表示に戻ります。

4 DISPLAYボタン:OFF(消灯)時

15、**17** ディスプレイ部は消灯していますが、入力セレクターやボリュームの変更およびGAINスイッチ(ゲインモード時)、BALANCEノブ等で機能変更した場合、その動作状態を4秒間表示後、再び消灯します。

機能ディスプレイ部：各スイッチやボタンで選択した動作状態を、**LEDの点灯**により表示します。



15 入力ディスプレイ部

(8.11ページ)

14 入力セレクターで選択した入力端子を表示
7 バランス調整を操作した時のバランスを表示

17 レベル・ディスプレイ部

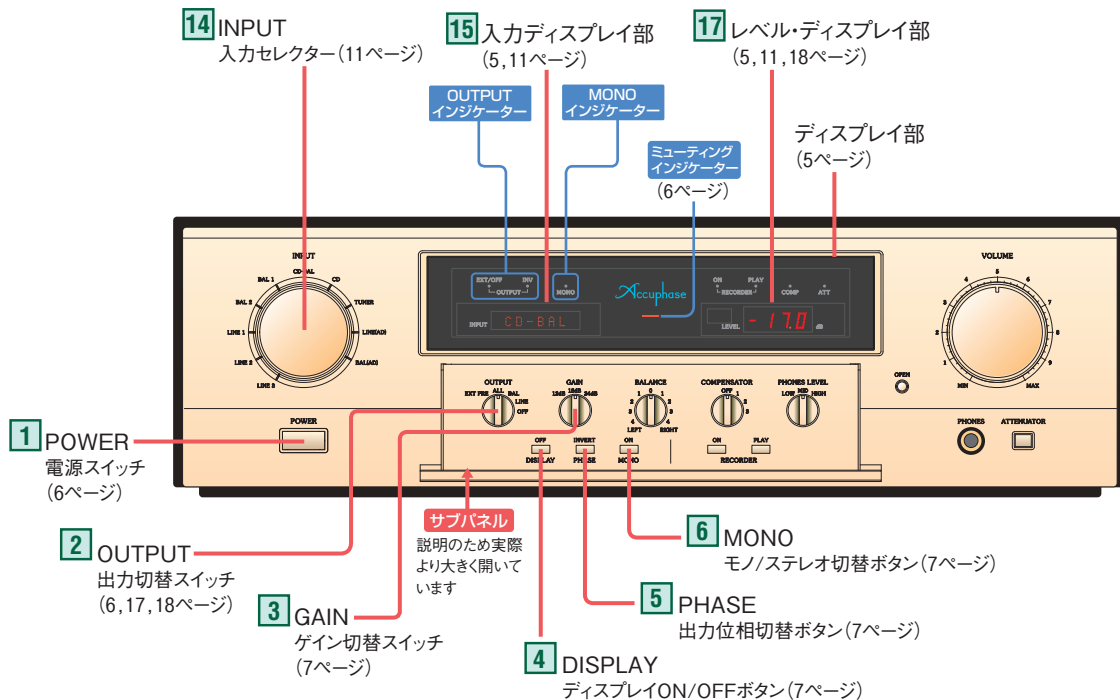
(8.11, 18ページ)

18 ボリューム・ノブを回して、音量を数値(dB)で表示

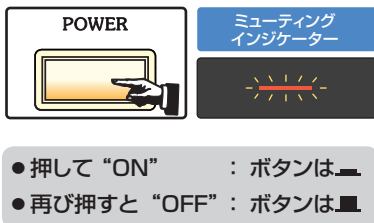
*表示モードの変更可能(18ページ参照)

3. 各部の動作説明

フロントパネル(前面)



1 POWER — 電源スイッチ



押すと電源が入り、再び押すと切れます。電源を入れてから回路が安定するまで約3秒間は、ミューティング回路が作動しますので出力はありません。

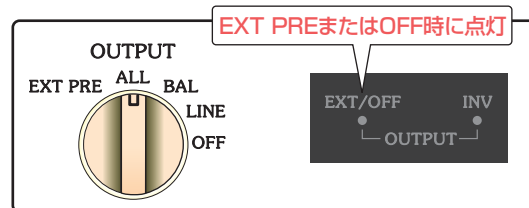
ミューティングが解除されるとミューティングインジケータが点灯し動作可能になります。

※ 電源スイッチをOFFにすると、OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジションにしたときと同様に、[24](#)、[25](#)EXT PRE INPUTSに接続した信号を[22](#)、[23](#)OUTPUTに出力します。

※ 電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

2 OUTPUT — 出力切替スイッチ

BAL、LINE合計3系統の出力端子とEXT PRE端子を切り替えるスイッチです。

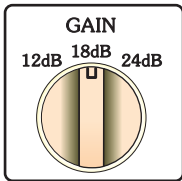


- EXT PRE** : 接続した外部プリアンプの出力に切り替わります。(17ページ参照)
- ALL** : 全てのOUTPUTS端子から出力します。
- BAL** : バランスOUTPUTS端子から出力します。
- LINE** : ラインOUTPUTS端子(ピンジャック)から出力します。
- OFF** : 3系統の出力信号が全て切れます。

- 通常は“ALL”のポジションでご使用ください。
- “EXT PRE”と“OFF”ポジションのときは機能ディスプレイ部の“EXT/OFF”のLEDが点灯します。
- ヘッドフォン出力は出力切替スイッチに関係なく出力されます。ヘッドフォン出力だけを楽しむ場合はOFFのポジションにしてください。
- ※ ALLポジションはレベルのゲインモード設定時にも使用します。(18ページ参照)

3 GAIN — ゲイン切替スイッチ

本機の増幅度を12dB、18dB、24dBの中から選択します。



入力ソースの出力レベルやパワーアンプのゲイン、スピーカーの能率などを含めた総合的な釣り合いを整えてボリュームの使用位置などを使いやすくするために、最適な増幅度(ゲイン)に設定します。

●通常は18dBで使用します。

- ボリュームを少し上げただけで大きな音量になるときは12dBを選択します。
- ボリュームをかなり上げないと十分な音量にならないときは24dBを選択します。

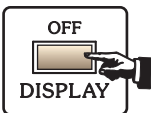
* レベル・ディスプレイ部の表示モード《ゲインモード》のとき、スイッチを切り替えると、**17**レベル・ディスプレイ部に、ゲインを加味したレベルを表示します。(18ページ)

メモ

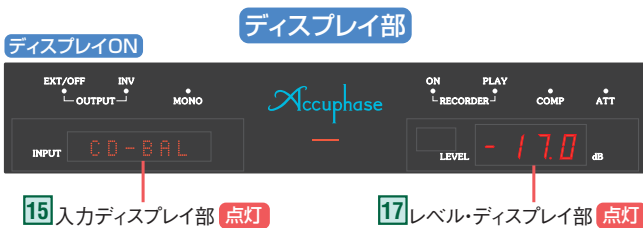
ゲインモード時で**4** DISPLAYボタンOFFの場合、スイッチを切り替えると、4秒間文字表示後、再び消灯します。

4 DISPLAY — ディスプレイON/OFFボタン

15 入力ディスプレイ部と**17** レベル・ディスプレイ部の表示をDISPLAYボタンでON/OFFします。



- 押して**15****17**ディスプレイ部 : 消灯
- 再び押すと**15****17**ディスプレイ部: 点灯

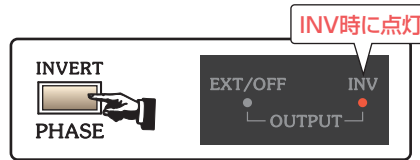


メモ

4 DISPLAYボタンOFFの場合、表示している文字は消灯しますが、文字表示される入力セクター、ボリューム、バランス、ゲイン(ゲインモードのみ)等機能を変更した場合、4秒間それぞれの機能状態を表示後、再び消灯します。

5 PHASE — 出力位相切替ボタン

絶対位相を切り替えます。国内外の全ての位相に対応可能です。通常出力信号は入力信号と同相ですが、このボタンを押すと出力の位相が反転(180°)して、出力信号は入力信号と逆相になります。



- 押して“INVERTED”(逆相)
ディスプレイ部のOUTPUT : 「INV」LED点灯
- 再び押すと同相 : 「INV」LED消灯

INVERTED(逆相)時:バランス出力コネクタ2番と3番の極性は、次のように変わります。入力や出力機器の極性と合わせて設定してください。

- ①: グラウンド
- ②: インバート(-) ⇔ ノン・インバート(+)
- ③: ノン・インバート(+) ⇔ インバート(-)

メモ

入力セクター、レコーダーなど全ての入力に対して、それぞれ位相設定が可能です。その設定は入力毎に記憶(LEDの点灯/消灯で確認)することができます。

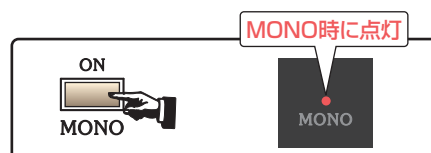
ソース側機器(CDプレーヤーなど)と出力側機器(パワーアンプなど)との様々な極性の組み合わせに対しては下記1から9の組み合わせを目安にしてください。

位相は合わせなくても再生可能です。

ソース側機器(極性)	出力側機器(極性)	本機のPHASE設定
1 バランスコネクタ-3番(+)	⇔ バランスコネクタ-3番(+)	⇔ 同相(INV LED 消灯)
2 バランスコネクタ-3番(+)	⇔ バランスコネクタ-2番(+)	⇔ 逆相(INV LED 点灯)
3 バランスコネクタ-2番(+)	⇔ バランスコネクタ-3番(+)	⇔ 逆相(INV LED 点灯)
4 バランスコネクタ-2番(+)	⇔ バランスコネクタ-2番(+)	⇔ 同相(INV LED 消灯)
5 ライン(RCA)	⇔ バランスコネクタ-3番(+)	⇔ 同相(INV LED 消灯)
6 ライン(RCA)	⇔ バランスコネクタ-2番(+)	⇔ 逆相(INV LED 点灯)
7 バランスコネクタ-3番(+)	⇔ ライン(RCA)	⇔ 同相(INV LED 消灯)
8 バランスコネクタ-2番(+)	⇔ ライン(RCA)	⇔ 逆相(INV LED 点灯)
9 ライン(RCA)	⇔ ライン(RCA)	⇔ 同相(INV LED 消灯)

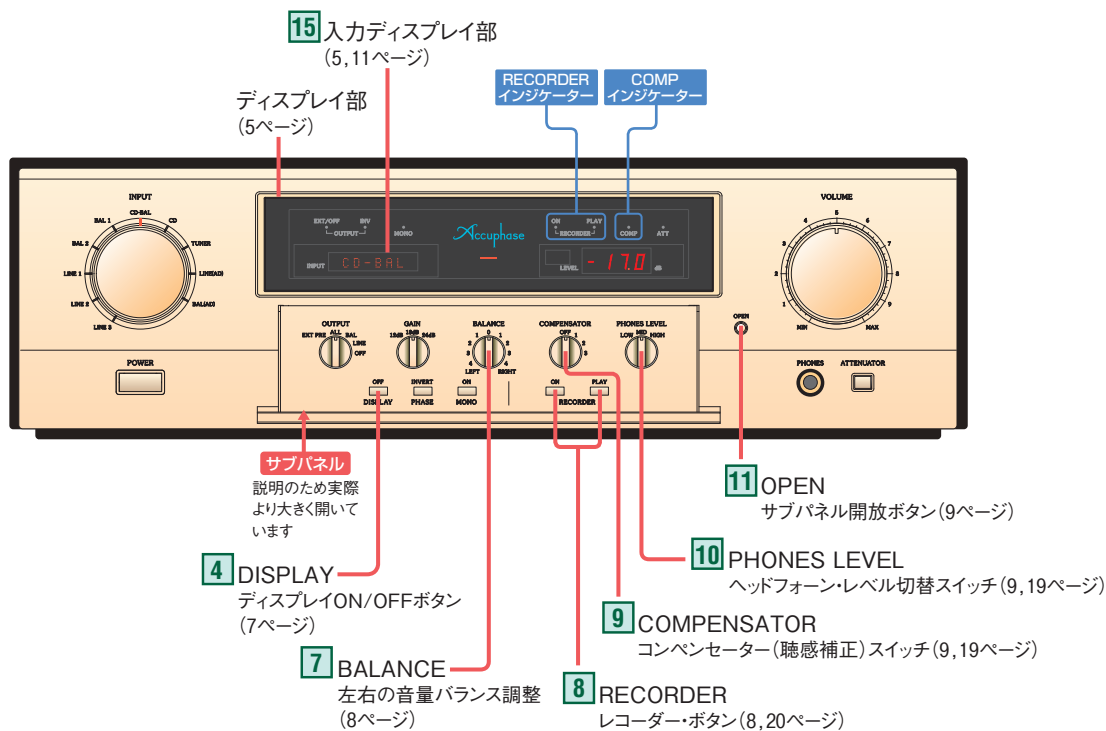
6 MONO — モノ/ステレオ切替ボタン

ステレオとモノフォニックを切り替えます。モノフォニックでは、左右チャンネルの信号がミックスされ、スピーカーの中央で聴くと音像はセンターに定位します。



- 押して“MONO”(モノフォニック): 「MONO」LED点灯
- 再び押すとステレオ再生 : 「MONO」LED消灯

フロントパネル(前面)



7 BALANCE — バランス調整

左右の音量バランスを調整することができます。
 BALANCEノブを回すと、15 入力ディスプレイ部に、変化量(左右レベルの差)が4秒間表示されます。
 通常はセンター(0)で使用します。



調整ステップ

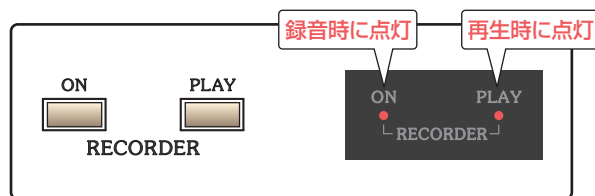
CENTER, 1, 2, 3, 4, 5, 7, 10, 15, 20, 25, 30, 35, 40, 50, 70, LEFT/RIGHT

メモ

4 DISPLAYボタンOFFの場合、バランスノブを回すと、4秒間同様に文字表示後、再び消灯します。

8 RECORDER — レコーダー・ボタン

21 レコーダー端子に接続したレコーダーで録音・再生をする場合に使用します。(詳細は20ページ参照)



RECORDER ON

入力セクターで選んだ信号が 21 RECORDER "REC" 端子に出力され、レコーダーで録音可能になります。

録音

- ONを押して録音 ディスプレイ部: 「REC ON」点灯
- 再び押すと録音OFF ディスプレイ部: 「REC ON」消灯

RECORDER PLAY

21 RECORDER PLAY端子に接続した信号を再生します。

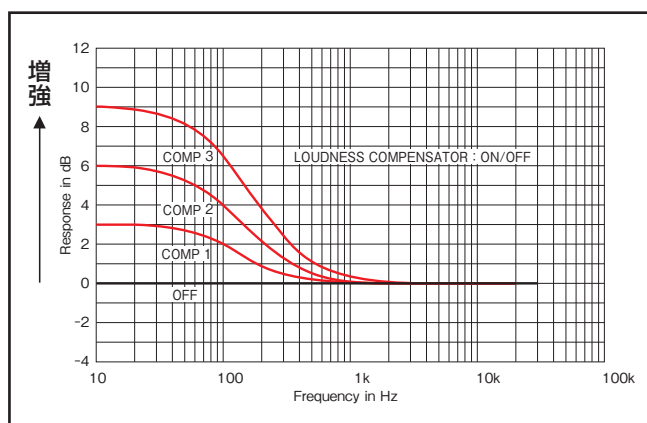
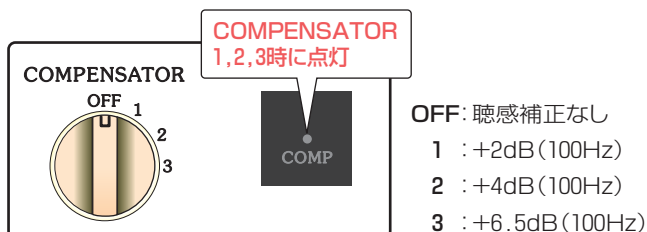
- RECORDER ONにすれば入力セクターで選んだ信号をPLAY端子と独立してRECORDER REC端子で録音できます。

再生

- PLAYを押して再生 ディスプレイ部: 「PLAY」点灯
- 再び押すと再生OFF ディスプレイ部: 「PLAY」消灯

9 COMPENSATOR — コンペンセーター(聴感補正)スイッチ

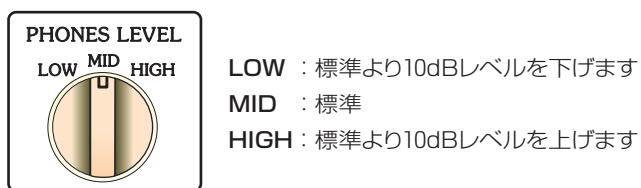
小音量で聴く場合など、低域が不足する場合、3段階に増強し、補正することができます。使用方法は19ページ参照



コンペンセーター特性

10 PHONES LEVEL — ヘッドフォン・レベル切替スイッチ

ヘッドフォンの出力レベルを3段階に切り替えます。使用方法は19ページ参照



11 OPEN — サブパネル開放ボタン

押すとサブパネルが開きます。閉める時はサブパネルを直接手で閉めてください。

開けるとき

サブパネルを開けるには11サブパネル開放ボタンを押します。

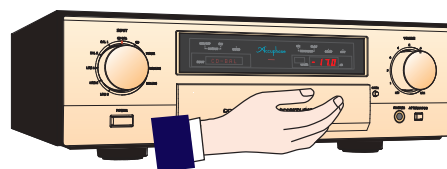
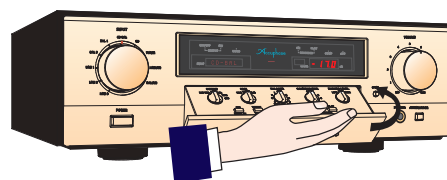


注意

サブパネルの縁に指をかけて直接開けないでください。サブパネル開閉機構を破損する恐れがあります。

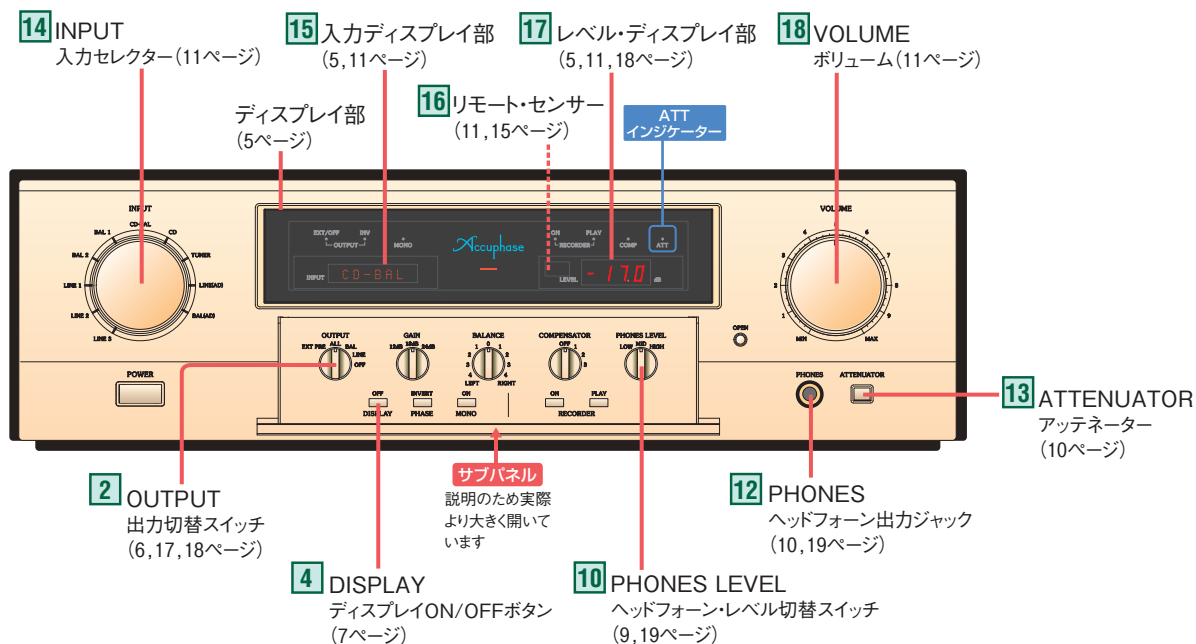
閉じるとき

開放したサブパネルの下を持ち上げるように閉じます。



閉じてロックすればOKです。

フロントパネル(前面)



12 PHONES — ヘッドフォン出力ジャック

ヘッドフォンで演奏を楽しむ場合、ヘッドフォン・プラグをこのジャックに差し込んでください。

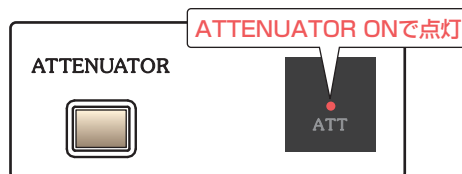
- ヘッドフォンの音量は本機のボリュームでコントロールしてください。ボリューム位置が使いにくい場合は、**10** PHONES LEVELを併用してください。(9, 19ページ)
- インピーダンス8Ω以上のヘッドフォンをご使用ください。
ただし、インピーダンスが高くなるにつれ、得られる音量が小さくなります。インピーダンスが100Ω以上の場合や能率の低いヘッドフォンはご注意ください。
- **2** OUTPUTスイッチで“EXT PRE”を選択した場合でも、本機でインプット・セレクトターやレコーダー・スイッチで選択された信号がヘッドフォンから出力されます。

注意

ヘッドフォンで演奏中、OUTPUTスイッチをOFF以外にするとスピーカーから音が出ます。急に大きな音が出ないように、音量に注意してください。

13 ATTENUATOR — アッテネーター

本機の出力量レベルを標準状態から瞬時に音量を下げるができます。減衰量は20dB(1/10)です。



- 押して“ON” : 『ATT』LED点灯
- 再び押すと“OFF” : 『ATT』LED消灯

レベル・ディスプレイ部が《ゲイン・モード》時

(18ページ参照)

アッテネーターON時、**17**レベル・ディスプレイ部の表示は、現在のレベルに-20dB加算された値に変わります。OFF時は、元のレベル値に戻ります。

メモ

- 4** DISPLAYボタンOFFの場合、ボタンを切り替えると、4秒間同様に文字表示後、再び消灯します。

14 INPUT — 入力セクター

リアパネルの各入力端子に対応するポジションのプログラム・ソースを選択します。

- 選択されたポジションは、ノブの外周にLEDが点灯し、**15**入力ディスプレイ部に文字表示されます。
- リモート・コマンダー RC-210でも同様に切替えることができます。

メモ

4 DISPLAYボタンOFFの場合、セクターを切り替えると、4秒間同様に文字表示後、再び消灯します。

CD、TUNER、LINE 1～LINE 3

リアパネルの各入力端子へ接続したライン(アンバランス)入力機器を選択します。

CD-BAL、BAL 1, 2

リアパネルの入力端子へ、バランス方式で入力した機器を選択します。

LINE(AD)、BAL(AD)

C-37などリアパネルの入力端子へ接続したフォノ・イコライザーを選択します。

5 PHASE—出力位相切替ボタンの設定を入力端子毎に記憶できます。

※「INPUT」では指標がなく、エンドレス(ストッパーのない)のロータリースイッチを使用しています。

15 入力ディスプレイ部

4 DISPLAYボタンON時には、**14**入力セクター(またはリモートコマンダーRC-210)で選択された入力が表示されます。

表示例

TUNER	→	TUNER
CD	→	CD
BAL 1	→	BAL 1
CD-BAL	→	CD-BAL
LINE(AD)	→	LINE(AD)
BAL(AD)	→	BAL(AD)

メモ

4 DISPLAYボタンOFFの場合、入力セクターを切り替えると、4秒間同様に文字表示後、再び消灯します。

※ **7** BALANCEノブを回すと、**15**入力ディスプレイ部に、変化量(左右レベルの差)が4秒間表示されます。(8ページ参照)

16 リモート・センサー

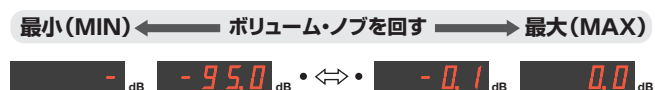
本機に付属しているリモート・コマンダー RC-210の赤外線信号を受信する窓です。リモート・コマンダーを使用するときは、発光部をここに向けてください。(リモート・コントロールの詳細は15ページ)

17 レベル・ディスプレイ部

18 ボリューム・ノブを回した時、その音量を数値(dB)で表示します。

工場出荷時における「表示モード」の初期設定はMAXを0としてボリューム位置の減衰量を表示する「アッテネーター・モード」です。

表示例



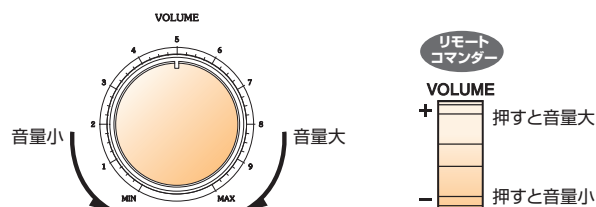
* 詳細な表示例は18ページ参照

メモ

- 初期設定の「アッテネーター・モード」から、増幅度(ゲイン)表示の「ゲイン・モード」に設定変更することができます。(18ページ参照)
- **4** DISPLAYボタンOFFの場合、ボリュームを回すと、4秒間ディスプレイ表示後、再び消灯します。
- リモート・コマンダーRC-210 VOLUME(+) (-) ボタンの操作時も同様に表示されます。

18 VOLUME — ボリューム調整

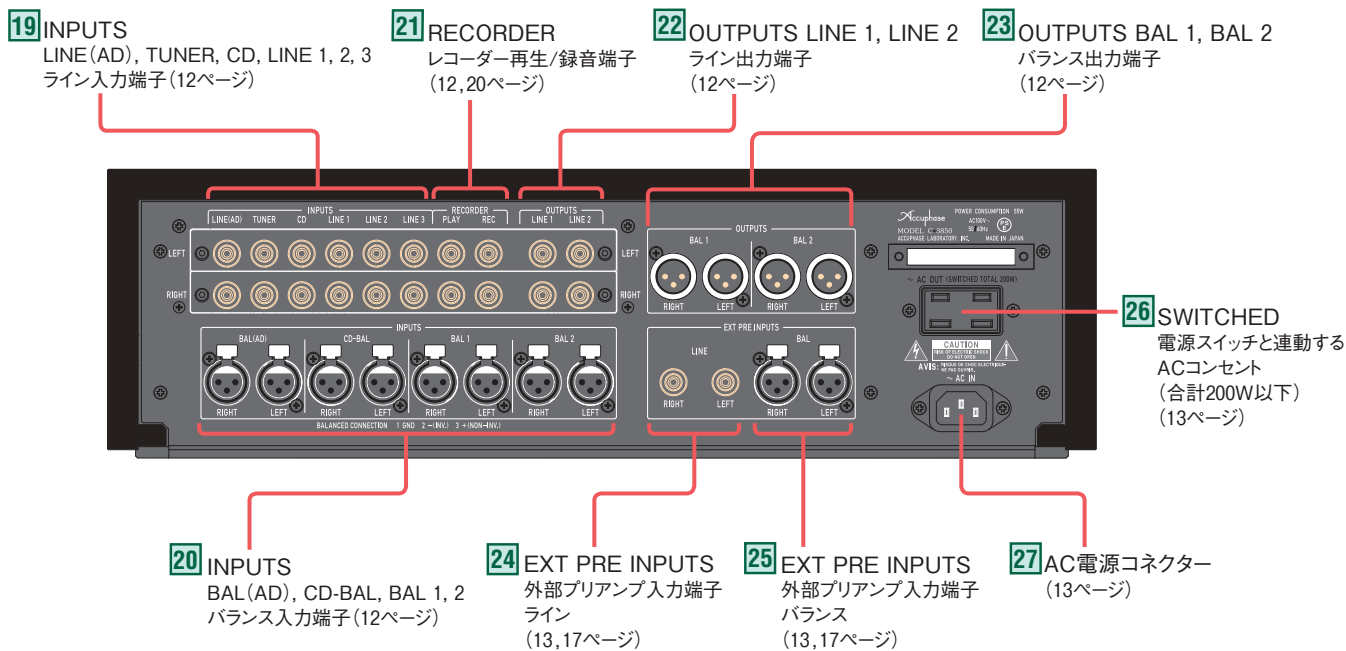
右へ回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。その音量が数値(dB)でレベル・ディスプレイ部に表示されます。リモートコマンダー RC-210でも同様に動作させることができます。



レベル・ディスプレイ表示例



リアパネル(後面)



19 LINE (AD)、TUNER、CD、LINE 1~LINE 3 ライン入力端子

一般的なハイレベル入力端子です。

* 最大入力電圧は6Vです。

* LINE (ライン)とUNBALANCE (アンバランス)は同一です。
本機ではLINE (ライン)として表記しています。

20 BAL (AD)、CD BAL、BAL 1, BAL 2 バランス入力端子

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用入力コネクタです。CDプレーヤーやチューナーなどのバランス出力を持つ機器を接続してください。

ピンの極性は、



- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノン・インバート(+)

となっていますので、ソース側の機器との極性を合わせて接続してください。

* ソース側機器と極性が本機と逆の場合は **5** PHASE で合わせることができます。(7ページ参照)

* 最大入力電圧は6Vです。

* バランス用オーディオケーブルは当社で別売しています。

21 RECORDER レコーダー再生/録音

レコーダーを接続し、録音・再生が可能です。(詳細は20ページ参照)

22 OUTPUTS LINE 1, LINE 2 ライン出力端子

通常のピンプラグ付オーディオケーブルで、パワーアンプの入力端子と接続します。

23 OUTPUTS BAL 1, BAL 2 バランス出力端子

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクタです。パワーアンプが、バランス入力端子を装備している場合には、バランス伝送が可能です。

ピンの極性は、



- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノン・インバート(+)

となっていますので、パワーアンプ側の極性を確認して接続してください。

● 入力ソース側またはパワーアンプ側の極性が本機と逆の場合は、**5** PHASE ボタンで合わせることができます。(7ページ参照)

● バランス用オーディオケーブルは当社で別売しています。

24 EXT PRE INPUTS — 外部プリアンプ入力端子(ライン)

外部のプリアンプ出力を、ライン接続で入力します。
(詳しい説明は17ページ参照)

- OUTPUTスイッチをEXT PREポジション、もしくは本機の電源を切ると、この端子の入力信号は22 OUTPUTS(ライン出力端子)に出力されます。
- * 23 バランス出力端子に出力することはできません。

25 EXT PRE INPUTS — 外部プリアンプ入力端子(バランス)

外部のプリアンプ出力を、バランス接続で入力します。
(詳しい説明は17ページ参照)

- OUTPUTスイッチを「EXT PRE」ポジション、もしくは本機の電源を切ると、この端子の入力信号は23 OUTPUTS(バランス出力端子)に出力されます。
- * 22 ライン出力端子に出力することはできません。

26 SWITCHED — 電源スイッチと連動するACコンセント

本機と接続する機器の電源をこのコンセントから取ると、電源スイッチをON/OFFすることにより、他の機器の電源も同時にON/OFFすることができます。

注意

接続する機器の消費電力は合計200Wを超えないようにする。

27 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。

警告

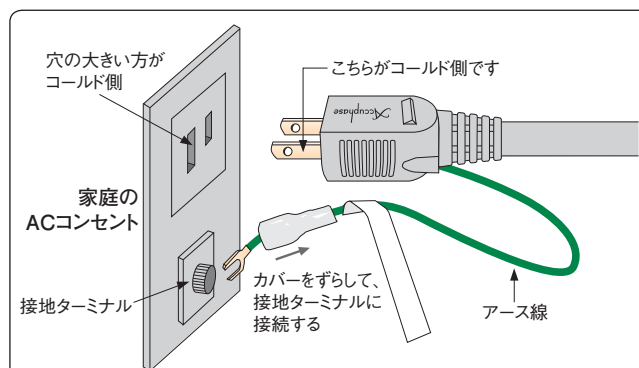
電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

■入・出力端子や、AC電源コネクタ、電源プラグには接点復活剤や導電剤などは絶対に使用しない。

樹脂部が経年劣化で破損したり端子部がショートをおこし、感電や火災あるいは故障の原因になる事があります。(接点復活剤、導電剤使用による不具合は保証外となります。)



警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

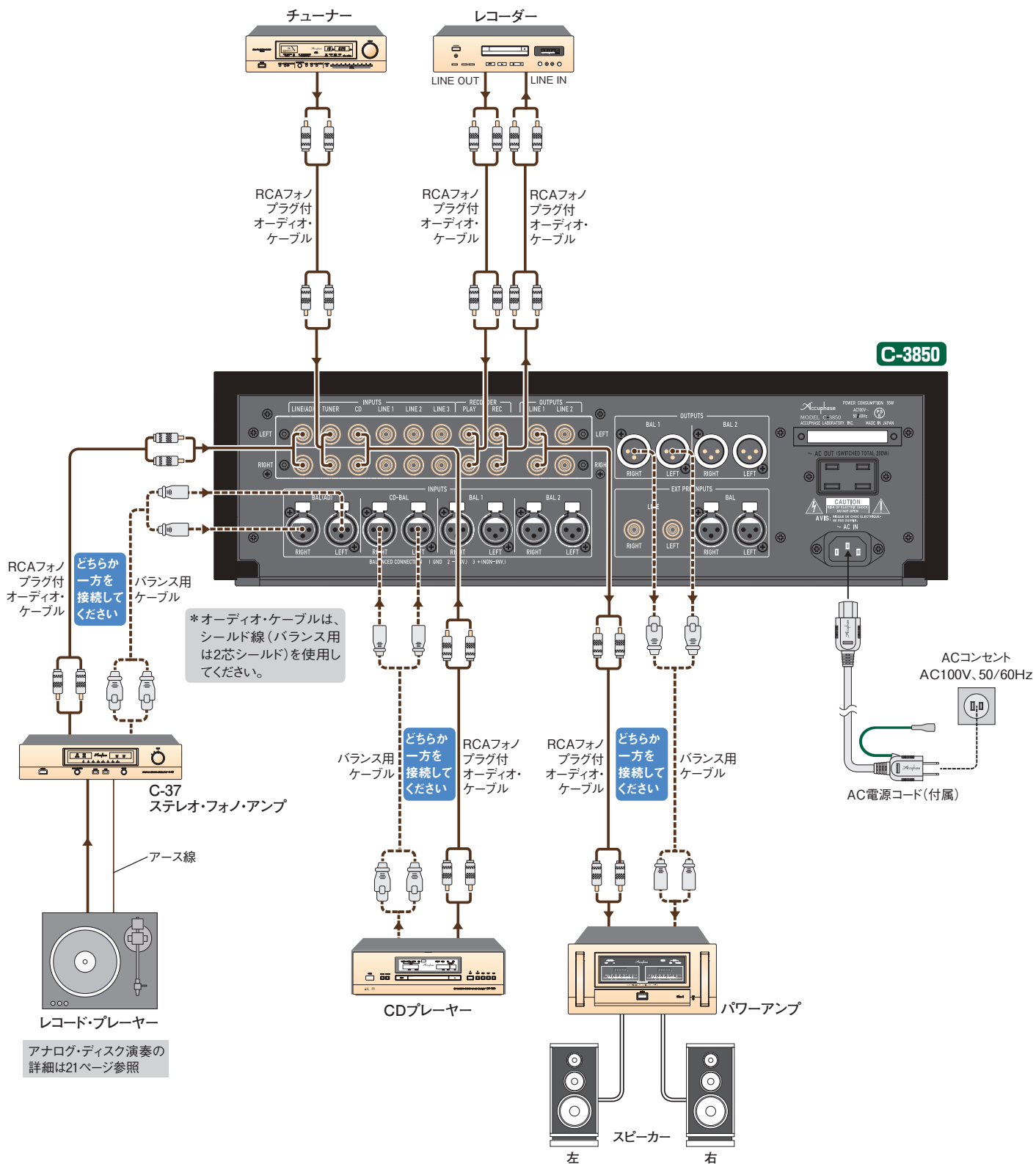
◆注意

- 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。
- 大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。
- 本機のSWITCHEDコンセントは、下側がコールドです。

4. 接続図

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しく接続してください。
 - 同一機種同士でバランス用とライン用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



5. リモート・コントロール

リモート・コマンダー RC-210の取り扱い方

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-210を使うと、離れたところから次の機能をコントロールすることができます。

① INPUT – 入力セクター

リアパネルの各入力端子に対応するプログラム・ソースを選択します。各ボタンを押すと、INPUT SELECTORノブの外周に、選択された入力ポジションのLEDが点灯します。

② INPUT – 入力セクター(+), (-)

INPUT SEL (+)はノブの右回り、(-)はノブの左回りで入力を選択することができます。

③ VOLUME – ボリューム調整

本体ボリュームと連動しており(+)ボタン側を押し続けると、ボリューム・ツマミが右に回転し音量が増大します。また、(-)ボタン側を押し続けると左に回転し音量は減少します。(少しずつ押して微調整する)

④ CD PLAYER – CDプレーヤーのコントロール

アキュフェーズのCDプレーヤーをコントロールすることができます。但し、SA-CD/CDトランスポート DP-100のコントロールはできません。

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の16リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

- 落としたり、液体をこぼしたりしないようにしてください。
- 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

電池について

■ 電池の交換時期

操作距離が短くなってきたら乾電池の交換時期ですので、新しい乾電池と交換してください。(長期間同じ乾電池を使用しますと液漏れの原因となりますので注意してください。)

使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

注意

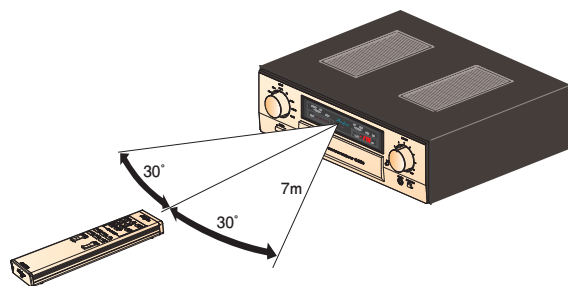
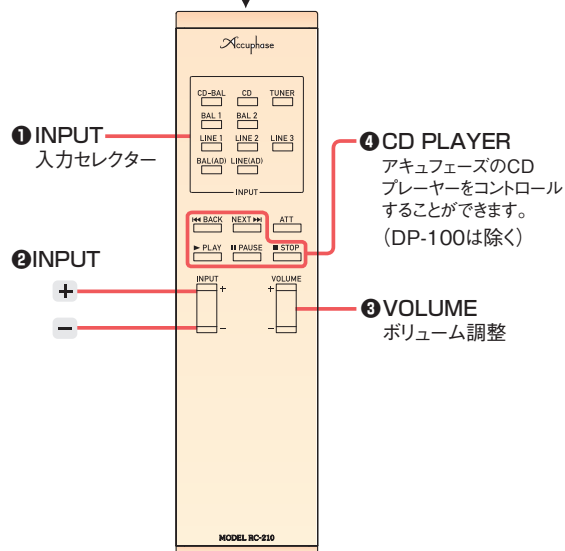
乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。

- 電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、+(プラス)、-(マイナス)を正しく合わせる。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

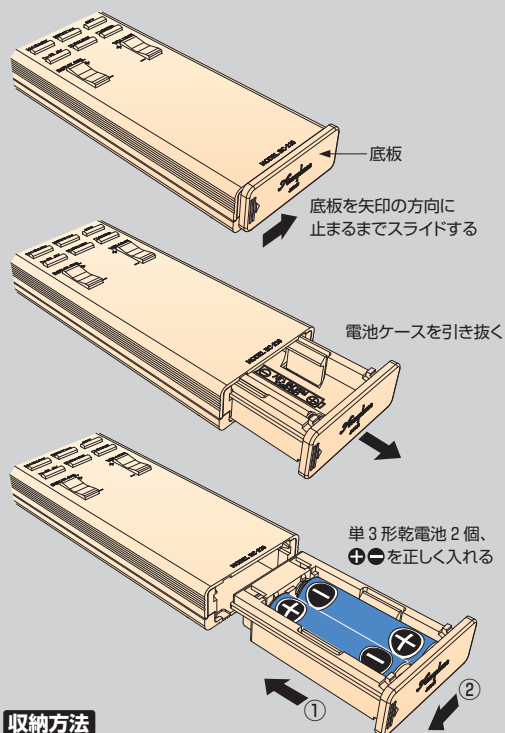
警告

- 乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。
- 電池ケースの電極部に金属類が触れないようにする。

発光部
(本体の16リモート・センサーに向ける)



乾電池の交換



収納方法

電池ケースをしっかり押し込んで①
底板を矢印方向にスライドして収納する②

6. ご使用方法

! **注意** : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

使用する前にノブやスイッチ、ボタンの位置を確認します

● VOLUME	: MIN(下げた状態)
● OUTPUT	: ALL
● RECORDER	: OFF(LED 消灯)
● PLAY	: OFF(LED 消灯)
● MONO	: OFF(LED 消灯)
● PHASE	: 同相(LED 消灯)
● COMPENSATOR、ATTENUATOR	: OFF(LED 消灯)
● BALANCE	: センター

CDプレーヤーの演奏

*接続図は14ページ参照

CDプレーヤーのアナログ出力をリアパネルのCD入力端子(またはTUNER、LINE 端子)へ接続します。また、CDプレーヤーがバランス出力を装備している場合は、バランス用“CD-BAL INPUTS”端子をご使用ください。

演奏の手順

- ① VOLUME が下がっていることを確認し、本機と共にCDプレーヤーやパワーアンプの電源を“ON”にします。
- ② 入力セレクターでCDポジション(または入力したポジション)を選択します。
- ③ CDプレーヤーを演奏状態にして、VOLUMEを上げると演奏が聴こえてきます。VOLUMEを調整して再生状態を確認してください。
- ④ MONO ボタンをON(モノフォニック状態)にし、音像が中央に定位することを確認したり、コンペンセーターやアッテネーターなどの効き具合をお試しください。

チューナーで放送を聴く場合

*接続図は14ページ参照

チューナーの出力ケーブルをリアパネルのTUNER入力端子(またはCD、LINE 端子)へ接続します。また、チューナーがバランス出力を装備している場合は、BAL 1, BAL 2などバランス用“INPUTS”端子を使用することができます。CD再生と同じ要領で入力セレクターを合わせ、他のスイッチ類のポジションを確認してください。チューナーが放送局に同調していれば、ボリュームを上げると放送が聴こえます。

メモ C-3850の電源OFF時にタイマーでチューナー録音する場合は、20ページを参照してください。

別システムのプリアンプやAVアンプでの演奏

別システムのプリアンプやAVアンプで演奏を楽しむ場合、その機器の出力をC-3850の『EXT PRE INPUTS』端子へ接続しておけば、パワーアンプへの接続を変えずに演奏機器を切り替えることができます。操作は、**2** OUTPUTスイッチを『EXT PRE』ポジションにします。

メモ：C-3850の電源をOFFにした場合には、OUTPUTスイッチのポジションに関係なく「EXT PRE」と同じ接続・動作になります。

注意：接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

接続したプリアンプの音量が下がっていることを確認してEXT PREに切り替えてください。

入・出力の接続

ライン接続の場合

24 『EXT PRE INPUTS』(LINE)に入力 ⇨ **22** OUTPUTS LINE1, LINE 2から出力

バランス接続の場合

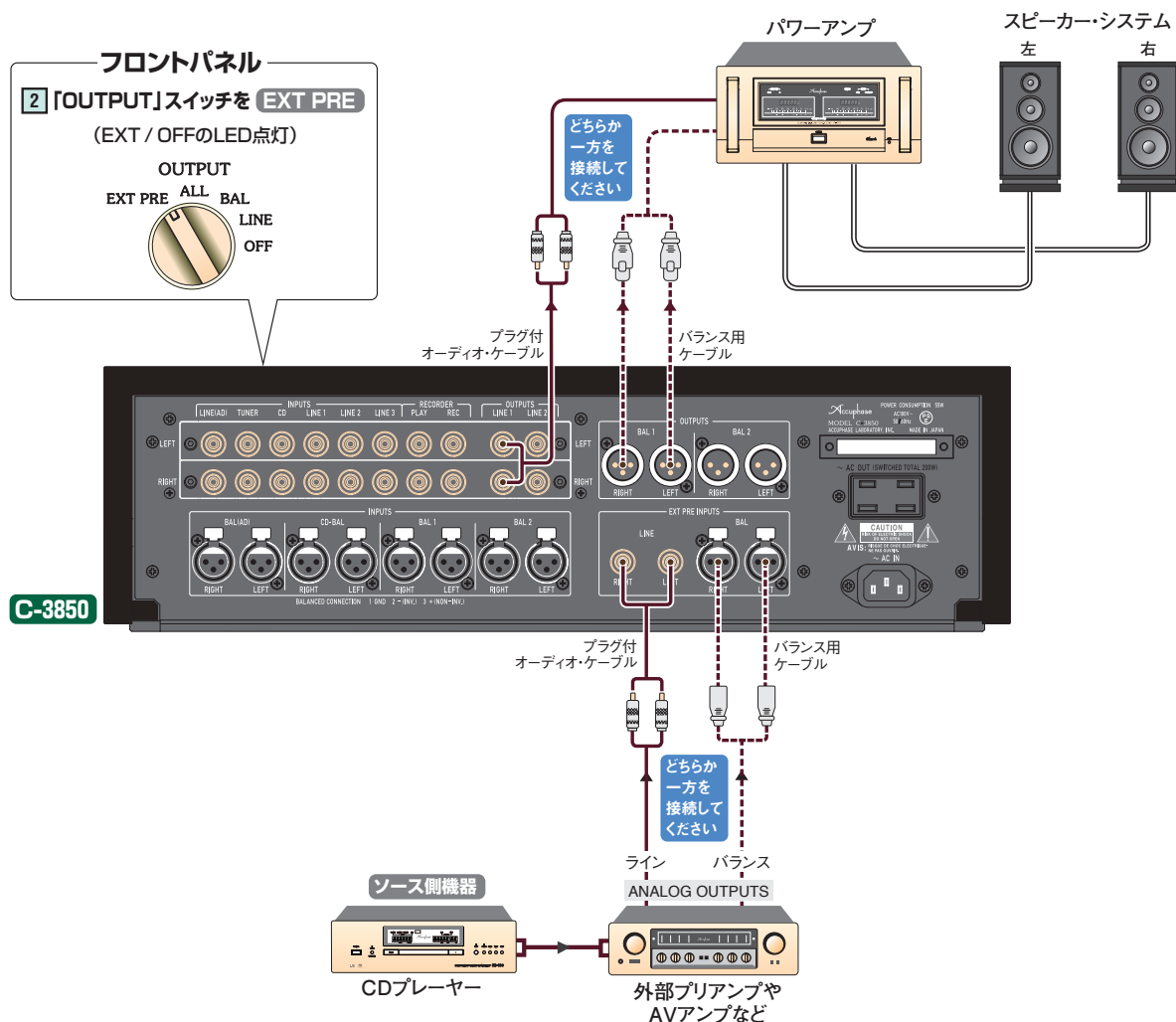
25 『EXT PRE INPUTS』(BAL)に入力 ⇨ **23** OUTPUTS BAL 1, BAL 2から出力

極性を変えることはできません

* 同一機器同士でバランス用とライン用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

* 『EXT PRE』の場合、全てのコントロールは接続した別のプリアンプで行います。

但しC-3850の**12**ヘッドフォン出力ジャックには、C-3850の入力セレクターやレコーダー・PLAYボタンで選択した信号が出力されます。



レベル・ディスプレイ部の《表示モード》変更

17 レベル・ディスプレイ部の《表示モード》は《アッテネーター・モード》と《ゲイン・モード》があります。出荷時初期設定《アッテネーター・モード》は、18 ボリューム・ノブを回すと、ノブを最大に回した状態(MAX)を基準(0dB)として、音量レベルを最小(MIN)まで表示します。この表示モードを変更して《ゲイン・モード》に設定することができます。《ゲイン・モード》では、ボリューム・ノブの回転に応じた増幅度(ゲイン)を正確に表示します。

ボリューム・ノブを回した時の表示例

アッテネーター・モード(初期設定)

ボリュームMAX時を基準(0dB)として、減衰量(絞った量)を(dB値)で表示します。

最小(MIN) ← ボリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

- -95.0 dB ⇔ -0.1 dB ⇔ 0.0 dB

0.0 dB	~	-8.0 dB	0.1dBステップ
-8.0 dB	~	-30.0 dB	0.2dBステップ
-30.0 dB	~	-50.0 dB	0.5dBステップ
-50.0 dB	~	-60.0 dB	1.0dBステップ
-60.0 dB	~	-74.0 dB	2.0dBステップ
-74.0 dB	~	-80.0 dB	3.0dBステップ
-80.0 dB	~	-95.0 dB	5.0dBステップ
-			MIN

各レベルのステップ数

ゲイン・モード

※ 3 GAIN切替スイッチで表示が変わります。

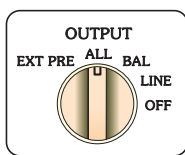
ボリュームの回転に応じた入力から出力までの実際の増幅度(ゲイン)を表示します。

最小(MIN) ← ボリューム・ノブを回す → 最大(MAX)

-	⇔	-83.0 dB	⇔	-6.0 dB	⇔	12.0 dB	12dBポジションの場合
-	⇔	-77.0 dB	⇔	0.0 dB	⇔	18.0 dB	18dBポジションの場合
-	⇔	-71.0 dB	⇔	6.0 dB	⇔	24.0 dB	24dBポジションの場合

設定の変更方法

『ゲイン・モード』に設定変更



2 OUTPUTスイッチ

ALLポジションにする



13 ATTENUATORボタン

2秒以上押す

- 2 OUTPUTスイッチをALLポジションにする。
- 13 ATTENUATORボタンを2秒以上押し続ける。
- 入力ディスプレイ部に4秒間表示。GainDisp

⇒ ディ스플레이部は『ゲイン・モード』に変更

メモ

- 3 GAIN切替スイッチを切り替えると、表示の数値にそのポジションのゲインが加算されます。(上部のディスプレイ表示例参照)
- 13 ATTENUATORボタンON時は、表示(数値)に-20dB加算表示されます。(10ページ参照)

『アッテネーター・モード』(初期設定)に戻す

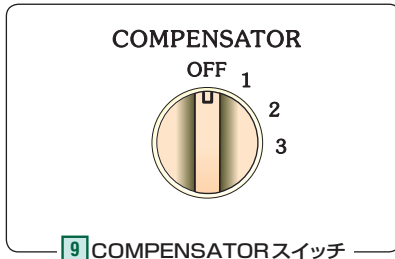
- 2 OUTPUTスイッチをALLポジションにする。
- 13 ATTENUATORボタンを2秒以上押し続ける。
- 入力ディスプレイ部に4秒間表示。AttDisp

⇒ ディ스플레이部は『アッテネーター・モード』に変更

コンペンセーターの使用

9 COMPENSATORスイッチは、小音量で聴く場合の聴感上のエネルギー・バランスを調整する機能です。人間の聴感特性は音量が小さくなるにつれて特に低音が不足して聴こえます。低音不足を補うために大変有効です。

OFF	: コンペンセーターOFF		: COMP LED消灯
1	: 低音を少し増強したいとき	100Hzで+2dB増強	: COMP LED点灯
2	: 低音をある程度増強したいとき	100Hzで+4dB増強	: COMP LED点灯
3	: 低音をたっぷり増強したいとき	100Hzで+6.5dB増強	: COMP LED点灯



ヘッドフォンの使用方法

ヘッドフォンのプラグを12 PHONESジャックに差し込んでください。

- ヘッドフォンのレベルは本機のボリュームでコントロールしてください。
- インピーダンス8Ω以上のヘッドフォンをご使用ください。
ただし、インピーダンスが高くなるにつれ、得られる音量が小さくなります。インピーダンスが100Ω以上の場合や能率の低いヘッドフォンはご注意ください。
- 2 OUTPUTスイッチで“EXT PRE”を選択した場合でも、本機でインプット・セレクターやレコーダー・スイッチで選択された信号がヘッドフォンから出力されます。

ご使用方法

注意

ヘッドフォンで演奏中、OUTPUTスイッチをOFF以外にするとスピーカーから音が出ます。急に大きな音が出ないように、音量に注意してください。

PHONES LEVELの使い方

ヘッドフォン出力レベルを3段階に切り替えます。

ヘッドフォンの感度に合わせて、本機のボリュームの使用位置などを使いやすくします。



- LOW : 標準より10dBレベルを下げます
- MID : 標準
- HIGH : 標準より10dBレベルを上げます

レコーダーで録音・再生をする場合

接 続

※ 接続図は14ページ参照

リアパネルのRECORDER端子にレコーダーを接続します。

REC 端子 ⇔ レコーダーのLINE IN端子
 PLAY 端子 ⇔ レコーダーのLINE OUT端子

機 能

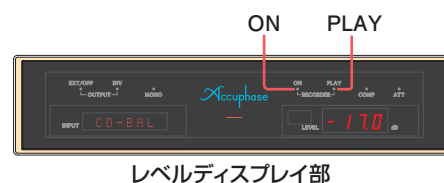
8 RECORDER ON : レコーダーONボタン

- レコーダーを使用して録音をする場合のボタンで“RECORDER ON”ボタンを押すと録音可能となり、ディスプレイ部に“RECORDER ON”のLEDが点灯します。レコーダー録音用“REC”端子に信号が出力され、録音が可能になります。



8 RECORDER PLAY : レコーダー再生 ONボタン

- レコーダーを使用して再生する場合のボタンです。RECORDER PLAYボタンを押すとディスプレイ部に“RECORDER PLAY”のLEDが点灯します。



操 作

再生 : プレイバック

RECORDER PLAYボタンを押して、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。レコーダーを再生だけに使用する場合は、RECORDER端子以外にLINEやCDなどの各入力端子を使うことができます。このときは入力セクターで選び、RECORDER PLAYボタンは使用しません。

録音 : レコーディング

レコーディングの操作手順

- ① 録音するプログラム・ソースを入力セクターで選択し、スピーカーから音を出して確認します。
- ② RECORDER ONボタンをONにします。レコーダーへの信号がREC端子から出力されます。
- ③ レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている内容が録音されます。
- ④ 本機のボリューム、アッテネーター、コンペンセーター、バランスは、録音されるレベルには関係しませんので音量を下げて録音することができます。録音レベルは、レコーダー側で調整してください。
- ⑤ RECORDER PLAYボタンを押すと、録音を続けながら、録音されたテープのモニターができます。(3ヘッド・テープレコーダーの場合)。

電源 OFF時のチューナー録音

電源OFFの場合には、リアパネルのTUNER端子に接続されている信号が、RECORDERのREC端子に出力されます。入力セクターやRECORDERボタンなどに関係しませんので、チューナーなどをタイマーで留守録音するときには、本機の電源を入れなくても録音が可能になります。

注意

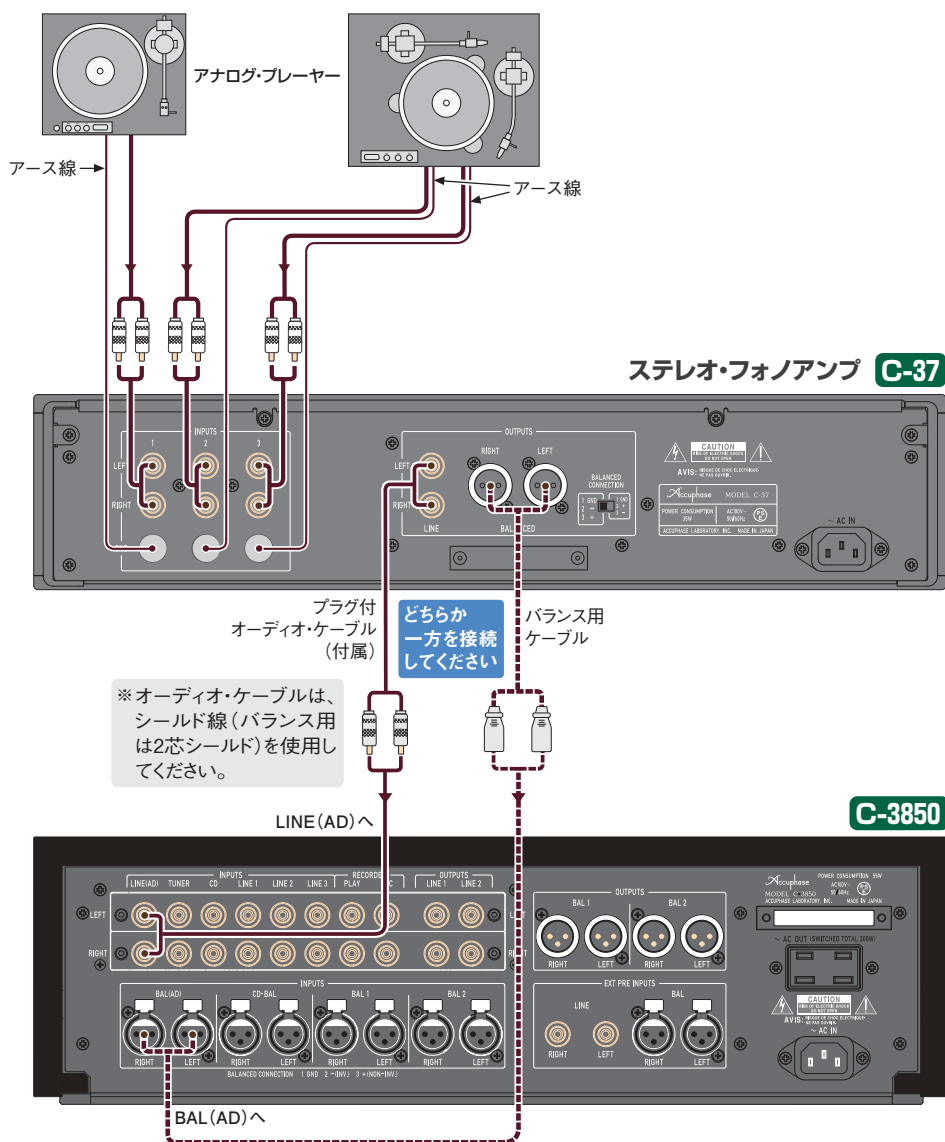
『電源OFF時』での録音中に、C-3850の電源を入れなくてください。
 録音中に電源を入れると、入力ポジションによっては録音途切れてしまいます。録音中に電源を入れるときは十分注意してください。

7. アナログ・ディスク (AD) の演奏

アナログ・レコードの再生には、別売のステレオ・フォノアンプ C-37またはC-27や市販のイコライザーアンプが必要です。

C-37との接続例

- 注意**
- アナログ・プレーヤーの出力ケーブルは、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しくつなぎ、プレーヤーからのアース線はGND端子に接続してください。
 - 本機との接続は、オーディオ・ケーブルを使用しLEFT(左)、RIGHT(右)を正しくつないでください。
 - 同一機器同士でバランス用とライン用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



ご使用方法

アナログ・ディスク (AD) の演奏

演奏の手順

- 1 VOLUMEが下がっていることを確認し、本機や関連機器の電源スイッチを入れて、入力セクターでC-37を接続した入力を選択してください。
- 2 ステレオ・フォノアンプの詳しい説明や設定はC-37取扱説明書をご覧ください。
- 3 レコード針をレコード面におろし、VOLUMEを上げていくと演奏が聴こえてきます。

8. 保証特性

*保証特性はEIA測定法RS-490に準ずる。

周波数特性

BALANCED INPUT : [CD/BAL 1, 2, AD]

3 ~ 200,000Hz +0 -3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

LINE INPUT : [CD/TUNER/LINE/RECORDER PLAY]

3 ~ 200,000Hz +0 -3.0dB

20 ~ 20,000Hz +0 -0.2dB

全高調波ひずみ率 (全ての入力端子にて)

0.005%

入力感度・入力インピーダンス

入力端子	入力感度		入力インピーダンス
	定格出力時	0.5V 出力時	
BALANCED	252mV	63mV	40k Ω (20k Ω /20k Ω)
LINE	252mV	63mV	20k Ω

定格出力・出力インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 2V 50 Ω

LINE OUTPUT : 2V 50 Ω

S/N・入力換算雑音 (ゲイン・スイッチ : 18dB 位置)

入力端子	入力ショート(A補正)		EIA S/N
	定格出力時S/N	入力換算雑音	
BALANCED	115dB	-127dBV	110dB
LINE	115dB	-127dBV	110dB

最大出力レベル (ひずみ率 0.005% 20 ~ 20,000Hz)

BALANCED OUTPUT : 7.0V

LINE OUTPUT : 7.0V

RECORDER REC : 6.0V AD入力時

LINE 最大入力電圧

BALANCED INPUT : 6.0V

LINE INPUT : 6.0V

クロストーク -90dB 以上(10kHz)

最小負荷インピーダンス

BALANCED OUTPUT : 600 Ω

LINE OUTPUT : 600 Ω

RECORDER REC : 10k Ω

ゲイン (GAINスイッチ : 18dB 位置)

*GAINスイッチ 12dB 位置では、下記の値に全て-6dB加算。

*GAINスイッチ 24dB 位置では、下記の値に全て+6dB加算。

BALANCED INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB

BALANCED INPUT → LINE OUTPUT : 18dB

LINE INPUT → BALANCED OUTPUT : 18dB

LINE INPUT → LINE OUTPUT : 18dB

ラウドネス・コンペンセーター

1 : +2dB (100Hz)

2 : +4dB (100Hz)

3 : +6.5dB (100Hz)

アッテネーター -20dB

ヘッドフォン端子 適合インピーダンス 8 Ω 以上

*10ページ参照

出力レベル 2V (40 Ω)

レベル切替 MIDに対して LOW : -10dB
HIGH : +10dB

電源 AC100V 50/60Hz

消費電力 55W

最大外形寸法

幅477mm × 高さ156mm × 奥行406mm

質量 25.0kg

付属リモート・コマンダー RC-210

リモコン方式 : 赤外線パルス方式

電源 : DC3V・乾電池 単3形2個使用

最大外形寸法 : 50mm×192.5mm×20.5mm

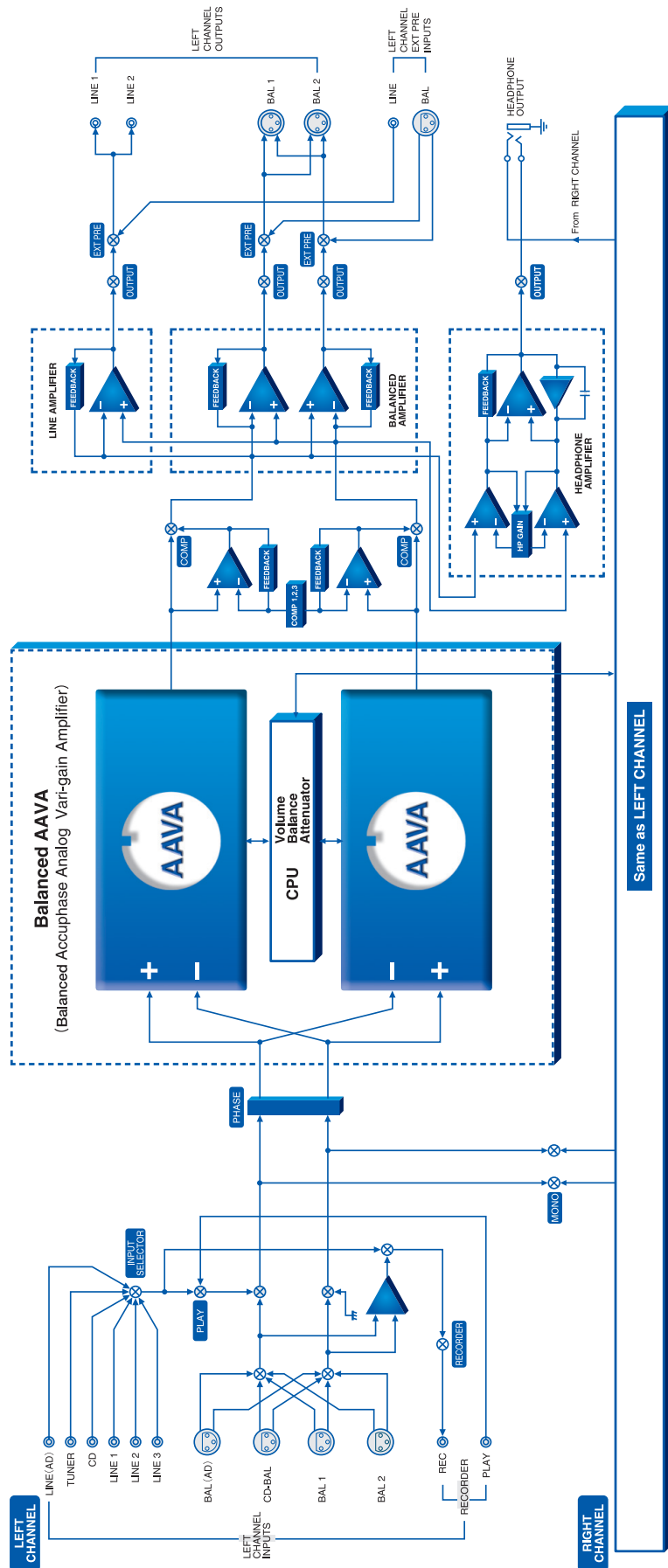
質量 : 215g (電池含む)

●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部: 限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

*本機の仕様・特性および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

9. ブロック・ダイアグラム



保証特性
ブロック・
ダイアグラム

10. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

! **注意** : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない

- 電源コードが抜けていませんか。

音がでない

- ソース側機器やパワーアンプの電源は入っていますか。
- 接続コードは正しく接続されていますか。
- 入力や出力切替スイッチの位置を確認してください。
- OUTPUTがEXT PREになっていませんか。(6ページ)

片側のスピーカーから音が出ない

- 接続コード、スピーカーコードは正しく接続されていますか。
- ソース側機器や本機のスイッチ類は正しい位置ですか。
(バランスの位置など)
- 本機とパワーアンプ間の接続コードを左右入れ替えてください。
 - ┌ 同じ側から音がでない …… パワーアンプやスピーカー側に原因が考えられます。
 - └ 左右逆の状態になる …… 本機やソース側機器に原因が考えられます。
- 次に本機への入力接続コードを左右入れ替えてください。
 - ┌ 同じ側から音がでない …… 本機に原因が考えられます。
 - └ 左右逆の状態になる …… 接続コードやソース側機器に原因が考えられます。

ボリュームを回すと、 スピーカーからノイズが出る

- 高能率スピーカーをご使用の場合、ボリュームを回転するときやバランス調整を行うときに、『電流スイッチの切替動作音』が聞こえる場合があります。この動作音は異常ではありません。(3ページ参照)
また「切替動作音」が気になる場合は、**3** ゲイン切替スイッチ(7ページ参照)を12dBポジションで使用すると有効です。

リモート・コマンダーで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の極性は⊕(プラス)と⊖(マイナス)が正しく合っていますか。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。
- テレビやインバータ照明等の近くに設置していませんか。お互いに離すか、置く向きを変えてみます。
- 電池ケースの接点は汚れていませんか。

表示が消える

- DISPLAYがOFFに設定されていませんか。(7ページ)

11. アフターサービスについて

保証書について

- 保証書は本体付属の『お客様カード(保証書発行はがき)』の登録でお送りいたしますので、「お客様カード」を**当社品質保証部に必ずご返送ください。**
- 『お客様カード』の『お客様情報欄』には付属の『目隠しシール』を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、**本機の保証期間はご購入日から5年間です。**
- 『品質保証書』の無い場合は、**全て有償修理となります**ので、『お客様カード』は必ずご返送ください。
- 『お客様カード』をご返送いただく時、ご購入日等を記入して頂きますが、下記の場合には『品質保証書』の発行ができないことがあります。
 - *ご記入頂いた購入日と弊社からの製品出荷日とが大きく異なる場合。
 - *『お客様カード』が返送されないまま、転売(インターネット等)された場合。
 - *長期間『お客様カード』の返送がない場合。
- オプション類には『お客様カード』を付属していませんが、製品出荷日をご購入日として弊社が登録し、『5年間保証』とさせていただきます。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 本機は絶対に分解や改造をしないでください。修理ができない場合があります。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。**
The Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川12-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理のお問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理を依頼する場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご購入日、ご購入店
- ご住所、氏名、電話番号
- 故障状況：できるだけ詳しく

* 梱包材は、輸送時に必要となりますので、可能であれば保管しておいてください。

enrich life through technology



ACCUPHASE LABORATORY, INC.
アキュフェーズ株式会社
〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL.045-901-2771(代) FAX.045-901-8959
<http://www.accuphase.co.jp/>